

Pomology Seminar

2016 11/30 Wed. 15:00~

農学生命科学研究棟セミナー室 (1)

果物の輸出促進に向けた産官学連携による実証型研究事業に関して

中野 龍平 博士 (Prof. Ryohei Nakano)

岡山大学 環境生命科学研究科 (Okayama University)

近年、攻めの農政の一環として、日本産果物の輸出促進が期待されている。その中で、日本産のモモはトロツとした他国産にない肉質を持ち、東アジアおよび東南アジア地域における贈答用として販売拡大が期待される。しかしながら、モモは急速な軟化のため棚持ち期間が短く、また、低温障害を発生するために、低温貯蔵や低温流通も困難であると考えられてきた。発表者らの研究グループは、モモにおいて、5℃前後におくと低温障害の発生が顕著であるが、10℃程度では障害の発生なくゆっくりと軟化すること、0℃付近におくと2週間程度であれば、その後常温に戻しても、低温障害を発生しないことを見いだしていた。そこで、これらの温度帯を利用した、海上コンテナによる輸出や産地近郊で保存した果実の輸出などの実証試験に取り組んだ。本発表では、これらの結果を紹介するとともに、この輸出試験を発展させた形で、5つの県および流通関係者らとの共同により、今年度から取り組んでいる新たな輸出促進研究事業の概要についても紹介したい。

農学部資源生物科学科・農学研究科農学専攻

セミナーに関するお問い合わせはこちらまで：takashia@kais.kyoto-u.ac.jp 果樹園芸学研究室・赤木